

石川県白山自然保護センター普及誌

はくさん

第 38 巻 第 1 号

目次

- P 2 ミズバショウを食べたのは何者か
本多 郁夫
- P 7 変化に富んだブナの森の道
～新観察路お目見え～
松崎 紀子
- P 9 平成 19 年に開設された砂防新道う回路に
オオバコとフキが侵入
野上 達也
吉本 敦子
- P12 ブナオ山観察舎作品
コンテスト 結果発表
- P14 はくさん
山のまなび舎だより
谷野 一道
- P15 希少な動植物を
絶滅から守りたい
吉本 敦子



早春の花 カタクリ～中宮展示館新観察路～

カタクリの果実

今春から、中宮展示館裏の観察路に新しいルートが開設されました。今年は、例年よりも雪解けが遅れたためか、ちょうど5月の連休ごろ、カタクリのピンクの花がルート一面にまるで絨毯を広げたように開花し見ごろを迎えました。この時期はまだ、ブナ、トチノキ、カエデ類などの落葉広葉樹の葉が展開していないため、太陽の光を浴びて透明感を帯びたカタクリの花に思わずため息が出てくるほどでした。

そのカタクリも5月中旬には果実ができ始め、6月には種子が熟します。その種子にはアリが好む物質がついており、そのためアリが種子を運ぶ様子が見られるかもしれません。もうその頃には林床で広がっていた葉も溶けるようになくなり、あとは来春の雪解けまで土の下の鱗茎という地下茎のみで過ごします。落葉広葉樹林の中で雪解けとともに開花し、広葉樹の展葉が始まるまでのわずかの間、太陽の恵みを最大限に生かす知恵をもったカタクリに生命の力強さを感じます。

(吉本敦子)

ミズバショウを食べたのは何者か

本多 郁夫(石川県地域植物研究会)

夏が来れば思い出す♪ と歌われているミズバショウは、特に野草を愛する人でなくとも、あこがれの花の一つでしょう。清楚なその姿は、人々を魅了してやまず、シーズンともなれば、各地の有名な自生地には人が行列して押しかけ姿が見られます。私もその中の一人ですが。

ミズバショウの名は、水湿地に生え、花後に伸びた葉が、1 m以上もの長さになり、バショウに似ているところからついたものでしょう。

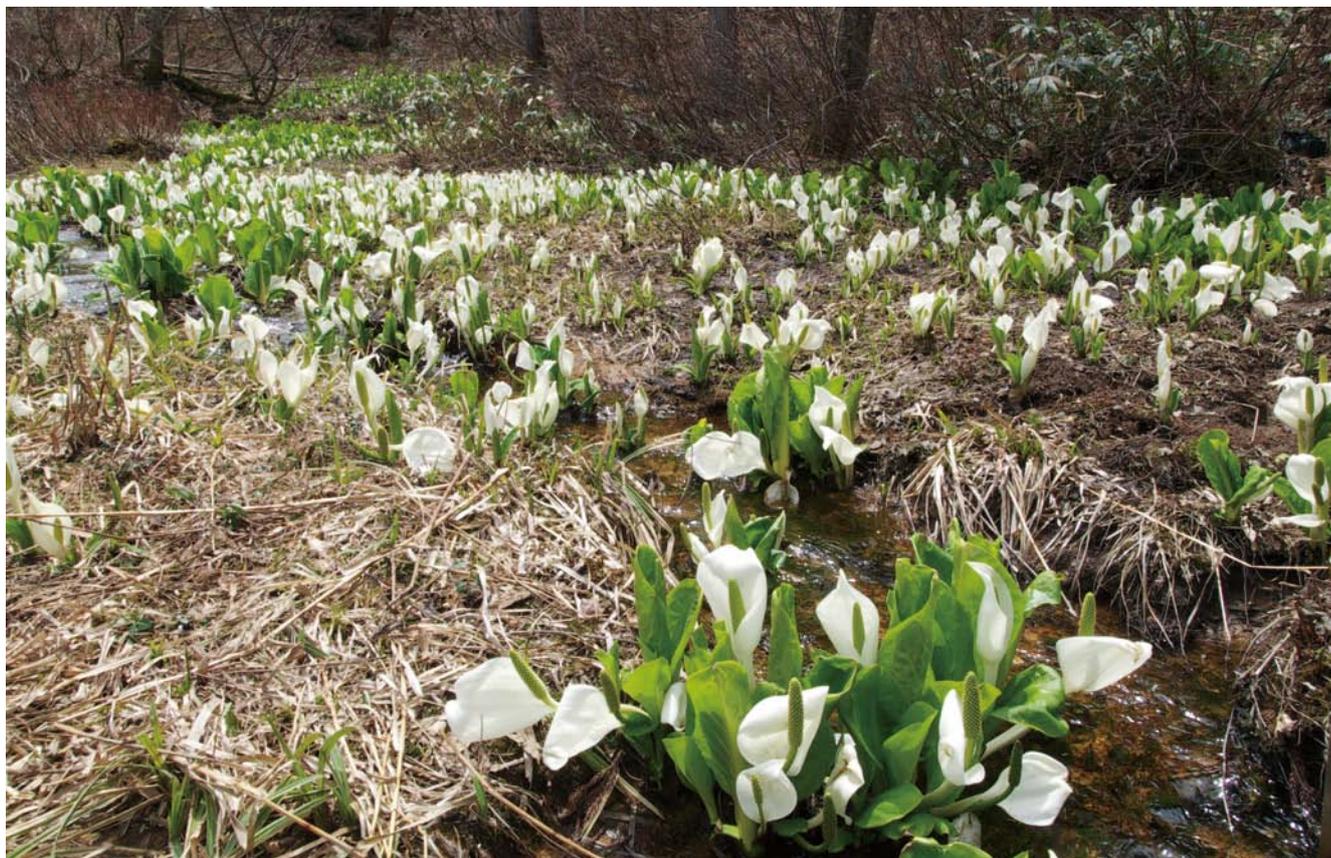


写真1 大嵐山のミズバショウ (2007年4月25日)

自生地

石川県では、三蛇山(輪島市)・東原町(金沢市)・大倉岳(小松市)・布橋町(小松市)・丸山町(小松市)などのほか、大嵐山(白山市)・根倉谷(白山市)をはじめとした白山麓の各地に自生しています。

花

ミズバショウでは写真1のように、白く大きな部分が目立ち、多くの人は、ここを見て花だと思ってしまいますが、これは「苞(ほう)」または「苞葉」とよばれるものです。苞とは、一つの花、あるいは花序(花の集団)の近くにある葉のことであり、ミズバショウの苞は、仏像の背中にある炎(写真2)のように見えるところから、仏炎苞と呼ばれます。

それでは真の花はどこかというところ、苞に包まれた棒状の肉穂花序と呼ばれる部分に小さな花がたくさん付いています。花は直径4 mmほどで、4枚の緑色で肉質の花被があります。[花被とは、萼と花冠の総称で、特に萼と花冠が似ている場合に使うことが多い。]



写真2 炎を背負った不動明王

開花

開花は意外に整然としています。まず、先のとがった白い筒状のものが伸びてきます（写真3）。これは苞が花序を包んだもので、その後ゆっくりと苞が開くのですが、苞が開ききらないうちに中をのぞいて見ると、緑色で肉質の花被の中央から、雌しべがすでに伸び出ているのが分かります（写真4）。この状態を（雌性期）とすることができます。すなわち、「雌しべ先熟」の花です。数日後、4本の雄しべが顔を出しますが、これは、概ね次のような順序で進行します。まず雌しべの下側の雄しべ（第1雄しべ）が現れ（写真5）、ついで上側の雄しべ（第2雄しべ）が現れます（写真6）。

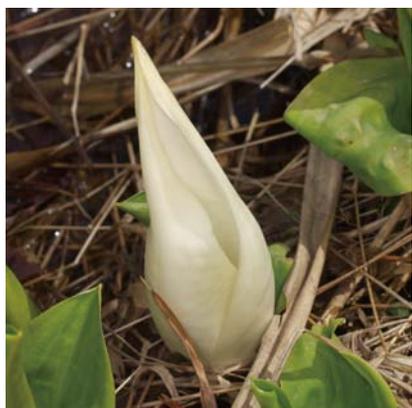


写真3 伸び出した苞



写真4 雌性期

写真6では、第1雄しべの葯が開いた状態と第2雄しべのいろいろの成長段階が見られます。第1雄しべと第2雄しべで、上下から柱頭に覆い被さるように花粉を出している様子も見て取れます。こうやって同花受粉をしているのだと考えられます。

次に、左か右の雄しべが現れ（写真7）、最後に残った雄しべが現れて満開となります。もっとも、満開といっても、華やかに花開くわけではなく、花序が花粉まみれになっているのでそれと察せられるのです。

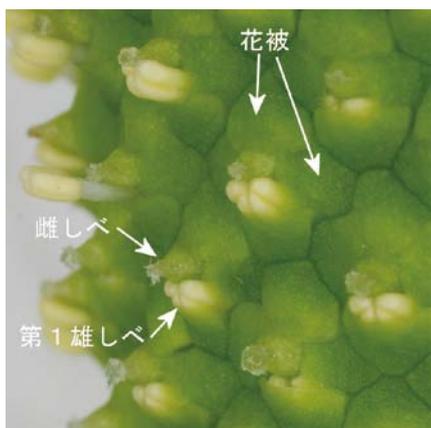


写真5 第1雄しべが出てきた



写真6 第1雄しべが花粉を出し、第2雄しべが伸びてきた



写真7 左右の雄しべが伸びてきた

受粉

前述のように、第1雄しべと第2雄しべが花粉を出すと、上下から柱頭に覆い被さるように花粉を出しているのので、他家受粉が難しそうに思えます。ミズバショウの受粉は、すなわち、雌性期の数日の間に他家受粉を目指すのが、他家受粉がうまくいかなくても、雄しべが伸びてくると自家受粉（同花受粉）で完全を期す狙いがあるのでしょう。写真8は第1雄しべの葯が裂開したあとの様子ですが、矢印の雌しべに花粉が降りかかっているのを見ることができます。花の様子から、基本的には虫媒花と考えられ、花にはほのかな芳香があり、いろんな昆虫が訪れていますが、どんな昆虫が花粉の媒介に本当に役立っているのでしょうか、未だ詳しいことは分かっていませんが、フィールドウォッチング（平凡社）によると自家受粉で種子を作る可能性は高いとの指摘もあります。

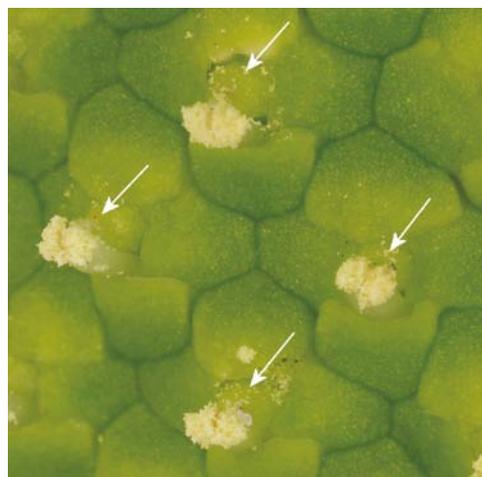


写真8 雌しべ柱頭に付く第1雄しべの花粉（矢印箇所）



写真9 花に来たアリ



写真10 花に来たハエの仲間



写真11 花に来た甲虫

花後・果実・種子

花後、仏炎苞は倒れ、花序は果期には果序とよばれるようになります。葉は幅40cm、長さ100cmにもなり（写真12）、この大きさがバショウの葉を思わせることからミズバショウ（水芭蕉）と名付けられたのだとうなづけます。果実が熟してくると、果序は次第に大きくなり、長さ15cm、太さ6cmにもなります（写真13）。完熟しても緑色のままですが、果序の付け根でぼろりと折れて、水中へ落ちます（写真14）。果実の周囲はスポンジケーキ状のふわふわした組織になっていて、水中でたやすく崩れ、溶けて種子が現れます。1つの果実の中には、2室があって、それぞれに種子が2個ずつ、都合4個の種子が含まれています。

種子は、円盤形で、臍（へそ）のある面は吸盤のようにへこみ（写真16左）、反対側はドーム状に盛り上がって（写真16右）、その頂部から発芽します。種子が散らばるのは、生育地の状況によって異なりますが7月で、2週間ほどで発芽し、発芽率はかなり高く、たくさんの幼植物を見ることができます。写真18の若苗は、発芽後翌年5月の様子で、未だ種子の皮が残っています。



写真12 夏には葉が大きくなる（幅40cm）



写真13 果序は熟すると長さ15cmにもなる



写真14 完熟すると果序ごと落ちる（7月7日）



写真15 果実はふわふわした組織に包まれる



写真 16 種子は2個ずつ縦に並ぶ

写真 17 播種後2週間(スケールはmm) 写真 18 若苗

果実を食べに来たのはだれか？

7月に、根倉谷の自生地へ行くと、毎年、木道上に多数のミズバショウの果序が転がっています。いったい何者が食べたのでしょうか。



写真 19 木道上で食べ散らかされた果序



写真 20 トウモロコシをかじったように食べてある



写真 21 葉の上で食べたのもある



写真 22 花茎がないので完熟したものを食べたようである



写真 23 幅広く踏みしだかれたミズバショウ。この荒らされ方は熊以外には考えられない。

実況検分

- 1 放置されてから相当の日数を経て干からびてしまった果序と前日あたりに放置されたりしい新鮮な果序が見られます。
- 2 新鮮なものを見ると、まるでトウモロコシをかじった時のような感じになっています。
- 3 木道以外でも、地上で食べられたものや花茎に付いた状態で食べられたものもあります。
- 4 食べられているのは完熟前のものがほとんどです。完熟すると、果序が花茎から外れるので、写真 19・20 のように花茎が付いていることはありません。

犯人は誰か

- 1 人間説……見学者がちぎってバラバラにした。この時期の自生地へは、よほどの物好きでなければ見学に来るとは思えません。毎年、まして、かじるなんて。
- 2 熊・狸・狐等説……熊がザゼンソウやミズバショウを好むということを聞いたことがあります。四つ足の動物が、安全のため、見晴らしの良い木道上で食べた可能性があります。
- 3 猿説……猿が果柄をちぎって、木道上で食い散らかしたとも考えられますが、猿がミズバショウを好むかどうか、また、群で行動する猿にしては食べた数があまりにも少なすぎます。

みなさんも、謎解きをしてみませんか

これは毎年、7月に見ることができます。熊に詳しい方に間接的に聞いたところでは、「犯人は熊だろう、熊は意外と器用で、そういう食べ方をする」とのことでした。また、私信によれば、「熊の糞中にミズバショウの種子が見つかった、という報告もある。」とのことでした。

私も、熊しか考えられないと思うのですが、今ひとつ決め手に欠けるのです。その一つが写真 23 で、ミズバショウが踏みしだかれているのですが、熊の足跡らしきものを見つけられなかったことです。写真 24 は、いくつかの歯形が付いてかみ切られた花茎で、その先端に写真 25 のような黒い毛のようなものが貼り付いていました。これが熊の毛ならば間接的な証拠になるのですが標本の無いのが残念です。ただし、白山自然自然保護センターの上馬康生氏からは、写真判定ながら「熊の毛」だろうとの情報を頂いております。



写真 24 歯形の付いた花茎



写真 25 切り口に付いた黒い毛？

決め手は、自動撮影装置で食べている現場を撮影することですが、私には荷が重い調査です。協力者が得られるとうれしいのですが。

変化に富んだブナの森の道 ～新観察路お目見え～

松崎 紀子（白山自然保護センター）

中宮展示館裏に新しい自然観察路ができました。展示館裏の猿ヶ浄土の麓を周回するルートと、カジヤ谷を渡ってブナ平まで行くルートの2か所です（次ページに略図）。ただし、ブナ平方向のルートは雪崩で壊れたカジヤ谷の橋が復旧するまで、当分の間、使用はお預けとなります。

猿ヶ浄土の麓周回、 ブナ平方向の2ルート

猿ヶ浄土の麓をめぐるコースは延長約720m、最も高い地点は標高730mで、展示館との標高差は120m。ブナやミズナラ林の中をつづら折に歩道が続き、花などを観察しながら登ると、断崖絶壁の猿ヶ浄土が眼前に迫る稜線に出ます。最高地点付近では中宮温泉やその上流にある湯谷頭を一望でき、その眺めや蛇谷の瀬音にさわやかな登山気分を味わえるでしょう。

展望も抜群

木々のトンネルをくぐったり、一面にカタクリやニリンソウが咲く中を横切ったり、植物の芽を食べながら移動してゆくサルの群れに遭遇したり、変化に富んだ森の様子を立体的に楽しむことができます。さわやかな汗をかいて、蛇谷の自然を満喫してみませんか。



中宮温泉や背後の山々を展望できる尾根道



ルート途中にあって目を引く二又のキハダの木



広場。くねくねしたミズナラが不思議な雰囲気をかもしだす休憩スポット



広場の又シ!?大蛇の頭に見える大きな石



今春生まれた子ザルと母ザル

新ルート略図



満開のニリンソウに歓声 新観察ルートで探検気分

新しいルートをお披露目する「新観察ルート探検隊」は5月22日に行われました。この日は新ルートのうち猿ヶ浄土の林をめぐるコースで午前、午後の2回に分け、家族連れなど合わせて56人が参加しました。

参加者は白山自然ガイドボランティアの皆さんの案内で、ちょうど花盛りのニリンソウの群生地や新緑のプナの植林地、周辺の山々が見渡せる尾根道などを巡りました。変化に富んだコースのうえ、初めて足を踏み入れる場所とあって、ちょっとした探検気分が散策を楽しんでいました。



ガイドさんの案内で新ルートを行く参加者



一面に咲きほこるニリンソウ



「これ、何かな」新ルートには発見がいっぱい

平成 19 年に開設された砂防新道う回路に オオバコとフキが侵入

野上 達也・吉本 敦子(白山自然保護センター)

砂防新道の通行止め

近年、白山で最も利用が多い砂防新道が通行止めになる事態が続いてありました。平成 16 年 5 月 17 日午後 4 時 30 分頃発生した別当谷土石流では、別当出合にかかる吊橋が流出する大きな被害が出て、新しい吊橋がかかけられ、登山道にう回路を設け通行できるようになった 7 月 24 日まで通行止めになりました(写真 1)。また、平成 18 年 9 月 7 日午前 6 時 30 分頃に発生した手取川上流別当谷上流の山腹崩壊では、砂防新道の一部も崩壊する可能性があったことから、崩壊の影響がない甚之助谷側に仮のう回路が開設された 9 月 21 日までの 14 日間が通行止めになりました(写真 2)。う回路は、その後約 1 年をかけて再整備され、現在に至っています。この砂防新道のう回路は標高約 1,785 m~1,885 m に位置し、延長は 450 m になります(図 1、写真 3)。昨年で開通して 2 年目になりました。



図 1 平成 19 年に開設された砂防新道う回路の位置
国土地理院発行 5 万分の 1 地形図「越前勝山」「白山」を使用。



写真 1 土石流によって流された旧別当出合吊橋



写真 2 旧砂防新道の山腹崩壊場所
登山道のすぐ脇まで山腹崩壊によって崩れており、今後の状況次第では登山道が崩壊する可能性がある(H21.10.22)。

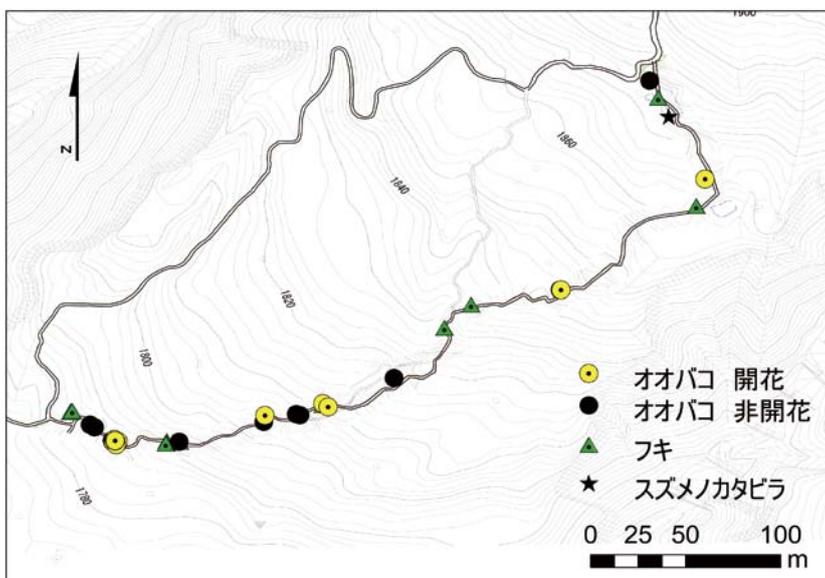


図 2 平成 21 年に確認された砂防新道う回路におけるオオバコ、フキ、スズメノカタビラの分布



写真 3 旧砂防新道とう回路の分岐
標高 1,785m (H21.10.22)

う回路にオオバコとフキが侵入

白山の各登山道では、これまでオオバコやスズメノカタビラといった低地性植物の侵入が確認されています。私たちは、新たに開設された登山道にもオオバコやスズメノカタビラといった低地性植物が侵入してくることが予想されたことから、う回路が開設された後から新たな低地性の植物の侵入が無いかどうかモニタリングを続けてきました。その結果、ついに平成 21 年にこの新たに設置された砂防新道う回路にオオバコ及びフキ、スズメノカタビラが侵入してきていることが発見されたのです。この記事では、その侵入状況や確認された低地性植物のうちオオバコの成長具合について紹介したいと思います。これらのような侵入後まもないオオバコやフキについて、その成長や繁殖の過程、分布拡大の様子を追跡調査し、侵入後の動態を明らかにすることは、今後の低地性植物による害の予防策を講じる上でとても重要だと考えています。

侵入した外来植物の分布

砂防新道う回路で初めてオオバコの生育を確認したのは、白山山頂付近での植物調査のために登山した平成 21 年 8 月 4 日でした。その後、植物体の成長がほぼ終了したと考えられる 10 月下旬の 10 月 22 日、30 日に改めて砂防新道う回路のオオバコの侵入状況を調査しました。その結果、砂防新道う回路で生育を確認したオオバコは 27 個体で、うち 14 個体が開花個体で、開花、非開花を問わず、う回路全域で見られましたが、標高の低いところで多いようでした。また、27 個体中 10 個体が標高約 1,795 m の地点でまとまって生育していました (図 2、写真 4、5)。

フキもオオバコ同様、砂防新道う回路では平成 21 年に初めて生育が確認されました (写真 6)。オオバコと同じ平成 21 年 10 月 22 日、30 日に実施した現地調査で確認されたフキは 21 個体でした。オオバコと同様、侵入が確認された場所は 1 か所ではなく、複数地点で見られ、また、う回路全域で見られました。また、複数個体がまとまって成育しているところもあり、標高約 1,795 m の地点では 7 個体が、標高 1,796 m の地点では 4 個体がまとまって生育していました (図 2)。

最後にスズメノカタビラは 1 個体が標高約 1,875 m で確認され (図 2)、平成 21 年 10 月 22 日の調査時には開花していました。



写真 4 まとまって生育しているオオバコ
標高 1,795m (H21.9.6)



写真 5 結実しているオオバコ (H21.10.22)



写真 6 砂防新道のう回路で確認されたフキ
平成 21 年、はじめての砂防新道う回路でフキが確認されたため、確認された場所を GPS を使って位置を記録しました (H21.8.22)。

侵入したオオバコの大きさ —室堂及び南竜水平道のオオバコとの比較—

今回、砂防新道う回路で確認された出芽後1年目のオオバコの葉のサイズや形について同じく出芽後1年目の室堂及び南竜水平道のオオバコと比較してみました。比較のために用いたオオバコのデータは室堂のものと南竜水平道の平成18年10月に木道工事が実施された工事箇所のものであります。比較の結果、葉の枚数や最も大きい葉の長さや幅などで統計的に有意差が認められました。すなわち今回、砂防新道う回路で確認された出芽後1年目のオオバコは室堂及び南竜水平道のものと比較すると、葉の枚数は多く、葉は大型になっているということが明らかになったのです(図3)。また、室堂や南竜水平道のオオバコは出芽後1年以内では開花できるサイズにまでは成長できず、開花には出芽から1年～2年、あるいはそれ以上の期間が必要でしたが、砂防新道のう回路では出芽を確認した年に開花する個体も見られました。ここでは半年で開花、結実できるサイズまで生長することができているのでしょう。平地に比べればオオバコの生長に厳しい砂防新道のう回路付近の環境も室堂や南竜水平道に比べれば雪どけは早く、気温も高く、オオバコの生長には良い環境と考えられます。なお、砂防新道のう回路よりも標高が高く、南竜水平道とほぼ同じ標高の南竜ヶ馬場のケビン前(標高約2,080m)でも、出芽した当年中に開花・結実できることが明らかになっています。ケビン前は雪どけも早く、日当たりもよく、コンクリートによる輻射熱で周囲より温度が高い可能性があります。単に標高差だけでなく雪どけの早い遅いといった積雪環境や日当たりなど立地条件によって異なった結果となるのかもしれませんが。

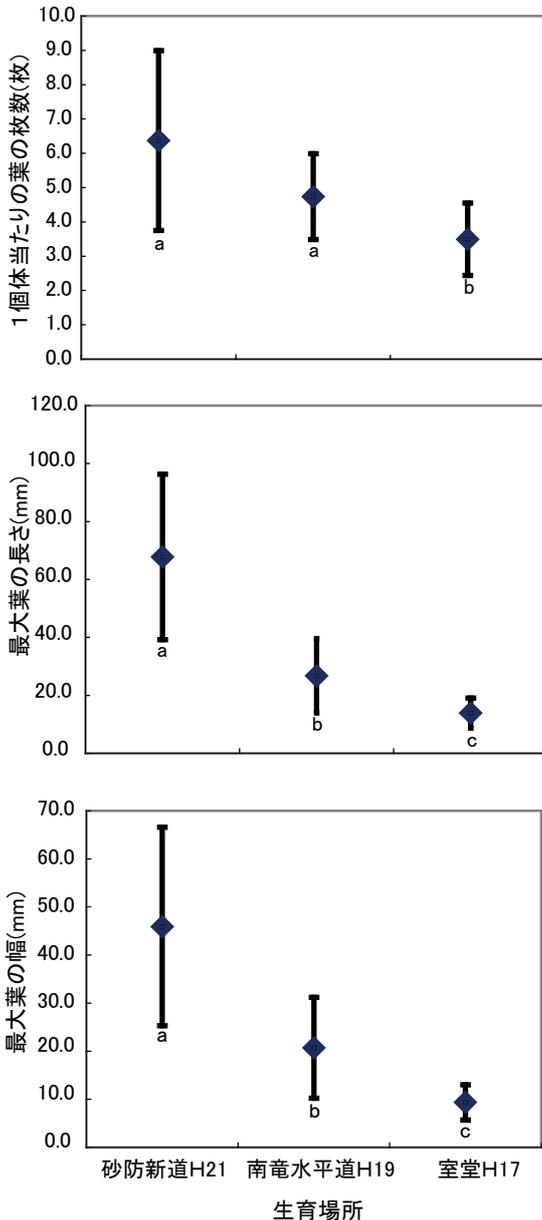


図3 生育場所ごとと生育場所ごとの出芽後1年目のオオバコの葉の枚数や最大葉のサイズ(葉の長さ、葉の幅)の比較

上から葉の枚数、最大葉のサイズ(葉の長さ)、最大葉のサイズ(葉の幅)の比較。バーは標準偏差。異なるアルファベット間には統計的に有意な差があることを示す。

終わりに

今回、開設されて間もない登山道にオオバコやフキ、スズメノカタビラといった低地性植物が侵入してきている実態が明らかになりました。オオバコやフキで確認された多くの個体は、登山道の人歩く部分では少なく、人の踏み込む場所でも休憩して荷物を下ろすような場所ではない登山道と周辺の植生との間に出来た裸地の部分にありました。このことから、これら侵入した低地性植物の種子のほとんどは、登山道開通後に登山者の靴について運ばれてきたと考えるよりも、登山道整備の際に工作物あるいは工事者によって持ち込まれたと思われます。よって新たな登山道開設の際に低地性植物の侵入を防ぐためには、工事の際に持ち込む資材や工事関係者に対しての侵入防止策を講じる事が重要であると考えられます。砂防新道は白山では最も利用者数の多い登山道で、最近のデータでは全登山者の約4～5万人のうちの約7割が砂防新道を利用しています。このように砂防新道のような利用者が多い登山道では一度侵入し、開花できるまで生長した個体から種子ができ、それを登山者らが分散させて広がっていく可能性があります。資材や工事関係者に対しての侵入防止を図るほか、侵入した場合は拡散防止のため早急に侵入した植物を除去するなどの対策を取る必要があると考えられます。

ブナオ山観察舎作品コンテスト 結果発表

白山自然保護センターでは、平成22年1月から3月までの来館者を対象にブナオ山観察舎で感動したこと、体験したこと、観察したことなどを表現した作文、絵、写真などの作品を募集する「作品コンテスト」を行いました。滋賀県などの県外の方や県内では輪島市立町野小学校や一般の方から応募があり、応募作品の中から、作文の部、絵画の部、写真の部の3部門で、部門ごとに優秀賞1点（作文の部は該当なし）、入選3点（写真の部1点）の合計9点を選定しました。入賞作品は6月下旬より中宮展示館で展示しますので、ご覧ください。

絵画の部



優秀賞：藤川恭子さん（白山市）

カンジキハイキングの日、カラマツの地点までの杉林内で足跡がたくさん見られて、影のコントラストも美しくとても印象的でした。

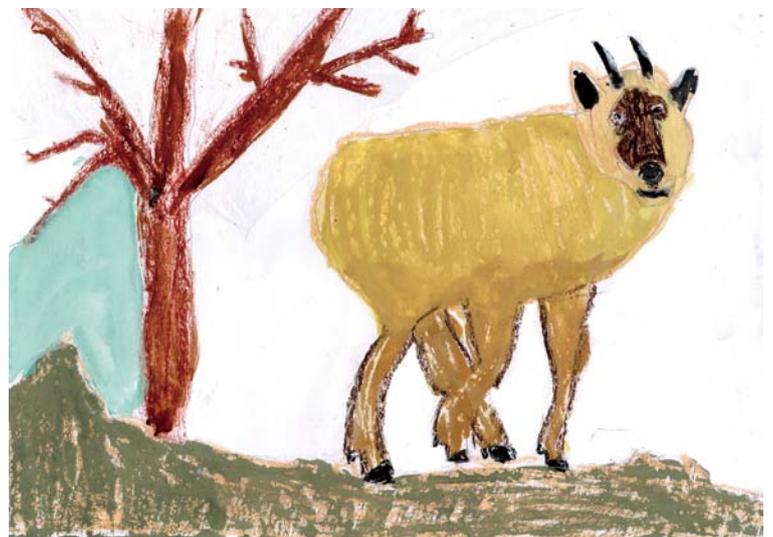


入選：上谷柚香子さん（輪島市）

はじめてブナオ山のカモシカを見て、とても感動しました。だから、この絵を描きました。



入選：刀祢沙紀さん（輪島市）



入選：坊上慎治さん（輪島市）

作文の部

十二月



雪山でサルでもふるえる

入選：常林坊凌央さん（輪島市）

サルが座っているところを絵にしました。



優秀賞：佐藤貴文さん（滋賀県）

朝一番、初めてのカモシカ撮影に感動しました。



身近
初めて見た
そして分かった
人と動物は
つながっている

入選：國田舞さん（輪島市）

白山に行って、こんなすばらしい光景が見れたので、その時の気持ちを詩にあらわしてみました。



さるの親子
カモシカたち
すてきかいはい
ブナオ山

入選：浅田萌花さん（輪島市）

写真の部



入選：田中実さん（輪島市）

カンジキハイキングのひとつま。大雪の中「さあ、しゅっぱつ！」

はくさん 山のまなび舎だより

中宮展示館のキャラクター・イヌワシ君



中宮展示館

4月29日に開館

カタクリ満開、ガイドウォーク始まる



ガイドさんの説明を聞きながら歩く

今シーズンの中宮展示館（白山市中宮）は4月29日にオープンし、さっそく新緑を楽しむ人たちにぎわいました。特に今年は積雪が多かったため、名物のカタクリの開花が遅れ、ゴールデンウィークがちょうど見ごろとなり、訪れた人たちを喜ばせました。

白山自然ガイドボランティアの皆さんによるガイドウォークも始まり、参加者はガイドさんの案内でブナの芽吹きや春一番の花を楽しんでいました。

ガイドウォーク 中宮展示館、市ノ瀬ビジターセンターで実施。白山自然ガイドボランティアや各館職員が周辺の自然をご案内します。時間は午前10時、午後1時から1～2時間。**参加無料**。参加申込は当日、カウンターへ。団体の場合は事前に連絡を。

ブナオ山観察舎

21年度シーズン終了

今シーズンは昨年11月20日から今年5月5日まで開かれ、ブナオ山ではカモシカ、ニホンザル、イヌワシ、クマタカなど、おなじみの野生動物のほか、イノシシも何度も観察されました。4月中旬からは冬眠明けのツキノワグマも毎日のように姿を見せ、若草を食べ回っていました。子グマ2頭を連れた母グマも観察され、来館者の目をくぎ付けにしました。来シーズンは11月20日に開館の予定です。

子
連
れ
の
ク
マ
も
観
察



ブナオ山の斜面で若草を食べるクマの親子 (H22.5.1)

市ノ瀬ビジターセンター

6月末開館!

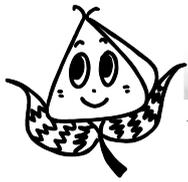


市ノ瀬周辺で見られるエゾアジサイ

白山市白峰と白山の登山口である別当出合を結ぶ主要地方道白山公園線が落石防止工事のため冬季閉鎖の解除が遅れ、これに伴い市ノ瀬にある市ノ瀬ビジターセンターの開館も遅れました。同公園線の開通は6月末の予定です。

エゾアジサイが見ごろ

市ノ瀬ビジターセンター周辺では、これからの時期、エゾアジサイをはじめ、ソバナ、ヨツバヒヨドリなどの夏の花が楽しめます。



市ノ瀬ビジターセンターのキャラクター・チブリ

しぜん もりだくさん

白山まるごと体験教室



鳴き声をたよりに双眼鏡で野鳥を探す

野鳥20種を確認

5月16日、白山市白峰の白山国立公園センターと近くの御前山で行われ、好天の下、家族連れら30人がブナ林の新緑や野鳥観察を楽しみました。

市ノ瀬の岩屋俣谷園地で予定していましたが、白山公園線の開通が遅れたため実施場所が変更されました。御前山はブナの原生林があるほか、野鳥も多く、参加者は白山自然ガイドボランティアの皆さんらの案内で遊歩道を巡り、ブナの芽吹き、残雪の白山、花盛りのホンシャクナゲやユキグニミツバツツジなどに迎えられました。野鳥観察ではオオルリ、ヒガラ、ツツドリ、クマタカなど約20種のさえぎりや姿が確認されました。参加者は耳と双眼鏡で鳥たちを探し、バードウォッチングの楽しみを体感していました。



ブナ林内の遊歩道を進む

白山自然ガイドボランティア

新年度第1回研修講座 AEDで救急訓練

4月10日、白山市木滑の白山自然保護センターで開かれました。白山石川広域消防本部の職員の指導でAED（自動体外式除細動器）の使い方を実地訓練し、万が一の時の対応を学びました。午後からは周辺の林道を歩き、野鳥や植物の観察で知識を深め、今シーズンのガイド活動に備えました。



AEDの使い方を習うガイドボランティアの皆さん

ガイド活動へ足慣らし

自主研修会

白山自然ガイドボランティアの皆さんが自主的に企画した研修会が5月29日、9人が参加して石川・福井県境の「護摩堂峠」までの往復コースで行われました。国道157号谷トンネル付近から植物を観察しながら林道を歩き、今シーズンへ向けて足慣らしをしました。（谷野 一道）



植物を観察する参加者

センターの動き（3月19日～6月18日）

3.24	希少種・外来種問題検討会	(県庁)	5.16	白山まるごと体験教室	
3.26	水循環健全化事業全体発表会	(県立大)		「新緑のブナ林とバードウォッチング」	(御前山)
4.10	白山自然ガイドボランティア研修会第1回	(本庁舎)	5.21	モニタリングサイト1000第1回検討会	(東京)
4.15	NHKテレビ「はくさん季節のたより」出演 隔月第3木曜かがのとイブニングで放映	(本庁舎)	5.22	中宮展示館新ルート探検隊	
4.17～18	ミチノクフクジュソウ調査	(勝山市)	5.29～30	白山スーパー林道ウォーク	
4.21	ライチョウ会議実行委員会	(県庁)	5.29	白山自然ガイドボランティア自主研修	(護摩堂峠)
	白山自動車利用適正化連絡協議会	(本庁舎)	5.30	自主参加型外来植物除去作業ボランティア研修会	(白山市)
4.23	ラジオ金沢ほっと石川環境情報出演	(本庁舎)	6.1	MROラジオ「げつきんワイド! おいねどいね」出演	
4.27	甚之助避難小屋 造成工事打ち合わせ	(白山市)	6.11	ラジオ金沢 ほっと石川環境情報 出演	
4.29	中宮展示館開館		6.13	団体ガイドウォーク(根上カブスカウト)(中宮展示館)	
5.5	ブナオ山観察舎閉館		6.14	ラジオFM-N1 電話インタビュー	
5.13	白山市鳥獣害防止対策協議会	(白山市)	6.15	NHKラジオ「ここはふるさと旅するラジオ」出演	
5.15	環境省視察	(ブナオ山観察舎)	6.16	金城大学短期大学部美術学科 講師	(白山市)
5.15～16	全国野鳥保護の集い	(金沢市、小松市)	6.17	NHKテレビ「はくさん季節のたより」出演	(本庁舎)

センター主催行事のお知らせ

白山麓里山・奥山ワーキング

白山中宮道 ブナ林観察と草刈り

日程：7月11日(日) 9:00～15:00

集合：中宮温泉(白山市中宮)

定員：50名

内容：草刈り作業の体験を通して、白山の環境保全について理解を深めます。

白山まもり隊

- ①外来植物除去作業 in 室堂
- ②外来植物除去作業 in 南電ヶ馬場
- ③探って楽しむオオバコ茶

日程：①8月21日(土)～22日(日)

②9月4日(土)～5日(日)

③9月26日(日) 13:00～16:00

集合：①室堂②南電ビジターセンター

③市ノ瀬ビジターセンター

定員：①②50名 ③100名

内容：白山に侵入してきたオオバコやスズメノカタビラなど外来植物(低地性植物)の除去作業を行い、オオバコ茶の試飲等で楽しみます。

県民白山講座

白山の魅力

一高山植物と大型野生動物一

日時：7月17日(土)13:30～15:30

会場：県立生涯学習センター能登分室
(輪島市三井町)

定員：40名

内容：石川県民大学校能登校「いしかわを知る講座」の1つとして開き、能登の方を中心に高山植物や大型野生動物など、白山のすばらしい自然を紹介します。

恐竜時代の白山を探ろう

日時：8月7日(土)13:30～16:00

会場：白山市民交流センター

(白山市倉光)

定員：100名(申込不要)

内容：恐竜時代にタイムスリップ！恐竜など手取層群の化石を通して、太古の生き物たちについて学びます。

白山まるごと体験教室

化石で探る太古の白山

日程：7月25日(日) 9:00～15:00

集合：白山自然保護センター
(白山市木滑)

定員：30名

内容：化石や石などを観察して、太古の白山や、その生い立ちについて考えます。

木の実の観察と菓子作り

日程：9月25日(土)9:30～14:30

集合：中宮展示館(白山市中宮)

定員：30名

内容：山のいろいろな木の実を観察して、地元中宮の郷土料理「ねんぐあじ」を作ります。

申し込み・問合せ

各行事の1か月前から申し込みを受け付けます。定員に達し次第締め切ります。問合せは石川県白山自然保護センター(076-255-5321)まで。

希少な動植物を絶滅からまもりたい

「ふるさと石川の環境を守り育てる条例」を知っていますか？県では2004年にこの条例を定め、その中で絶滅のおそれのある野生動植物のうち特に保護する必要がある種を「石川県指定希少野生動植物種」として指定することにしました。指定された種は、捕獲、採取、殺傷または損傷を禁止しているほか、所持や譲り渡し・譲り受けを禁止しています。植物では、種子1個、葉1枚であっても採取が禁止されることになります。違反した場合は1年以下の懲役もしくは50万円以下の罰金に処せられます。

その指定植物のひとつにオキナグサがあります。オキナグサは以前から自生地の植物を大切に思う皆さんが、そっと見守ってきた植物です。そのオキナグサが、絶滅の危機にさらされています。もともと個体数が少ないのに加えて、何者かによる盗掘があとを絶ちません。昨日まで、調査していた個体が今日行ったら、なくなっている！こんな悲しいことといたら、言葉にもなりません。

昨今、地球温暖化等の環境の変化による動植物の絶滅の危機が世界中で取り上げられています。しかし、それよりも恐ろしいのは人間自身の手によるものではないかと。希少な動植物を絶滅の危機から守りたい。その思いが多くの皆さんに伝わりますように。そう願いながら調査を続けていきたいと思えます。

「石川県指定希少野生動植物種」については石川県自然保護課のホームページ(<http://www.pref.ishikawa.jp/sizen/srdb/index.htm>)にて紹介してありますのでご覧になって下さい。



オキナグサ

(吉本)

編集後記

さあいよいよ、今年も白山へ！と意気込んでいた矢先「落石のため白山公園線、当分の間通行止め」のニュースが飛び込んできました。いつになったら通れるようになるの、とセンターにも多くの問い合わせがありました。大丈夫、皆の愛する白山は逃げていきませんから、と自分に言い聞かせ白山の花々に想いをはせる日々を過ごしています。

(吉本)

はくさん 第38巻 第1号(通巻155号)
発行日 2010年6月18日(年4回発行)
編集発行 石川県白山自然保護センター
〒920-2326 石川県白山市木滑ヌ4
TEL.076-255-5321 FAX.076-255-5323
URL <http://www.pref.ishikawa.jp/hakusan/>
E-mail hakusan@pref.ishikawa.lg.jp
印刷所 前田印刷株式会社